

「旧正月を迎え活気づく台湾、 今年のキーワードは地域密着」

広島大学大学院修士課程修了。人事コンサルティング、日本企業の台湾新進出事前調査、台湾現地法人の設立、運営サポート業務等を中心としたサービスを提供。日本の良き隣人「台湾」に関することなら、築いてきた人脈と自身の経験値を基に懇切丁寧にサポート。



今月のハッピーメールを読者の皆様をご覧になっている2月の台湾はちょうど旧正月休みが明けたばかりで、各地商店街やビジネス街では多くの人達が商売やビジネスでの無事、安泰を神様に祈願する、通称「拝拝(パイ・パイ)」と呼ばれる儀式が執り行われている頃です。(2024年3月号のハッピーメールで紹介済み)

しかし、今年の台湾では旧正月を待たず、新年早々そのご利益に是非ともあやかりたいと、ある人物をひと目見ようと群がったニュースが連日報道され、世間を賑わせました。台湾の人達から伝統のお金の神様、財神さんに例えられたその人物とは、生成 AI 向け半導体で知られた AI 業界のゴッドファーザー、エヌビディア (NVIDIA) 社の黄仁勳 CEO です。

現在の台湾支社が手狭になったため、新たに海外本部を台湾に設立することを発表した後、台湾の各市市長達から「本部は是非とも私の管轄する市、地域に設立をと」誘致に関する熱烈なラブコールを送られております。1月下旬の旧正月準備で賑わう台湾にプライベートジェットに乗って颯爽と台中飛行場に降り立った黄仁勳 CEO に、気の早いマスコミは「エヌビディア社台湾本部は台中に設置？」などと煽りたてております。黄仁勳 CEO が人々から人気があるのは、そのライフスタイルにあります。中でも特に台湾の夜市が大好きで世界的にもトップクラスの富裕層に属しながら、自身のスケジュールを調整し必ず台湾の夜市を訪ね B 級グルメを楽しみます。こうした庶民との距離感のないところが黄仁勳 CEO の特徴です。

いずれにせよここ数年の間にエヌビディア社と世界的半導体ファウンドリ、台湾積体回路製造 (TSMC) 社をはじめとした台湾半導体業界との関係は益々強固なものとなっております。何年後かに過去を振り返ってみた時、恐らく今年蛇年での動きが業界にとって一つのターニングポイントになり、改めて重要な一年であったと予感させるような気がしています。

＜台湾の小売業界で話題の地域密着型百貨店＞

2024年の台湾小売業界でダークホース的存在として業績を伸ばし頭角を現したのが、いわゆる地域密着型百貨店と呼ばれる大型小売店の数々です。台湾で言うところの百貨店には、デパート以外のショッピングモール、ショッピングセンター等も同業種として考えられており、百貨店イコール大規模小売店舗として捉えていただけたら分かりやすいと思います。昨年、台湾百貨店業界で A 級デパートとして認知されてい

る二大トップブランドの遠東 SOGO 百貨店や新光三越百貨店がグループ全体の業績が前年比頭打ち状態もしくは微増成長にとどまり、業績的には苦戦しているとの見方が専門家達の間で示されました。一方、従来ですと B 級デパート、ショッピングセンターとして見られていた地域密着大型小売店が一躍注目を集める存在に躍り出てきました。地域周辺住民のライフスタイルにいち早く着目し、地域住民の生活様式に必要不可欠な存在として普段の生活はもちろんのこと、消費者ごとにニーズが異なる余暇の過ごし方にも活用される場を提供していることが成功の要因だと思います。

私は昔、広島県の安芸郡府中町に住んでいたことがあります。台湾に帰国してから数年振りに府中町を訪れてみると、新たにイオンモール広島府中店ができており、極端な話イオンモールだけで普段の暮らしが成り立つことを実感しました。

この様に台湾でも特に注目されている台湾系地域密着大型小売店の中には、店舗内に食品ディスカウントスーパー「ロピア」やソニー・ミュージックエンタテインメント系列企業ライブハウス「Zapp」、バンダイナムコエンターテインメントの VR 体験施設が併設されている「宏匯廣場ショッピングモール」、6000坪の緑地を活用しての親子向け大型イベント実施で知られた「台茂ショッピングセンター」、台北市天母地域住民に特化したマーケティング戦略を採用して成功している「大葉高島屋」等が有名です。もちろん、それ以外にも有名な地域密着大型小売店は台湾にはおおよそ 60 店舗もあり、今後4年間の内、さらに31店舗のデパート、大型ショッピングモール、アウトレットモール等の大規模小売店舗がオープンすることです。その内6割の店舗が地域密着大型小売店としての運営を考えているとのことで、今後台湾の人達のライフスタイルの益々の多様化が垣間見える気がしています。



(台湾ロピア内の長蛇の列)